

平成 2 1 年度

《第 4 回》

国 語

時間 5 0 分， 1 0 0 点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一 次の文を読み、後の問いに答えなさい

①ところで、いつだったか、友人と歩いていて、一人の女の人とすれ違ったとき、その友人が思わず、

「きれいだな」

といったら、その女の人が、

「ありがとう」

といい、わたしはそのa瞬間、あ、いいなと思い、その女の人の美しさが、一段bマして感じられました。

②「ありがたい」は、「有り難い」で、A、「そうそうありうることはない」ということになります。

③「cコマ」つているから、こちらもひと肌脱いであれこれ親切に面倒をみてやったのに、その後ありがとうのあの字もいってこない」

④B、もしかしたら、親切というものは、お返しなしの、単に一方的な行為なのではないでしょうか。英語でいう、Xギブ・アンド・テイクとは違うのだと思います。お返しを期待するのは親切でなくて取引にすぎません。

⑤親切心から友人の借金の保証人になってハンコをついたばかりに、自分も破産の憂き目にあった、などという話をきくことがあります。だが、親切とは、もともと1そのくらしいの覚悟を（1）に決めたうえでの、実に特別な行為なのであって、だからこそ、それに対して、「ありがとう」ということが発せられるのだと思います。

⑥しかし、なにはともあれ、2「ありがとう」ということは、いいものですね。

⑦いわれるのもいいけれど、口にするのも、いいものだと、わたしは日頃感じています。

⑧店にラーメンを食べに入って、まもなく、dチュウモンしたラーメンが運ばれてくる。そのとき、なにも椅子から立ち上がって、深々と一礼し、

「ありがとうございます」

なんていう必要はありませんが、Yさりとて、無言、無表情のまま、ただちにラーメンのすすりこみに取りかかるといいうのも、いただけません。

⑨「ありがとう」

と、ほんのひとこと、わずか一秒です。

⑩いえば、いったきみが、気分がよく、気分のいいまま食べるから、その分ラーメンがうまいということになります。もちろん、いわれたほうだって、気分の悪いはずはありません。

⑪「あいさつ」のことばは、ナカグロのようなものと、わたしは思います。ナカグロというのは、「・」の呼び名です。「」でもなく、「。ではありません。たとえば、

〈インド・イラン・小アジア・バルカン・エジプトの歴史〉

なんていうふうにつかいます。インドもイランも小アジアもバルカンもエジプトも、別々のe区域ですが、右の場合、「・」によって、あるつながりが生じています。

⑫つまり、こういうことです。

〈人 人 人 人 人 人 人 人〉

と書くと、人はばらばらですが、

〈人・人・人・人・人・人・人・人・人・人〉

と書くと、そこにつながりが生じます。3「あいさつ」のことばも、このナカグロのようなものだと思います。

(川崎 洋『ことばの力』)

問一 波線部 a↘e のカタカナを漢字で、漢字は読みを答えなさい。

問二 空欄 A、B に入る適切な言葉を、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 例えば イ もちろん ウ つまり エ そして オ しかし

問三 (1) に入る言葉を、体の一部を表す漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部 1「そのくらの覚悟」とはどのような覚悟ですか。その内容を本文中の語句を用いて三十文字以内で答えなさい。ただし句読点なども字数に含みます。

問五 二重線部 X「ギブ・アンド・テイク」Y「さりとて」の意味で、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

X ギブ・アンド・テイク Y さりとて

ア 与えることと受け取ること ア そうであるから

イ 期待と裏切り イ そうであって

ウ あきらめることとねばること ウ そうだからといって

エ 一方と他方 エ そうであっても

問六 本文は大きく二つの段落に分けることができます。後半の段落はどこから始まりですか。段落番号①から⑫の中から番号で答えなさい。

問七 傍線部 2「『ありがとう』ということばは、いいものですね」とありますが、筆者がそのように考える理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「ありがとう」は、本来、めったにないことに対して使う大切なものであるから。

イ 「ありがとう」は、親切なことだけに對するお返しのことばであるから。

ウ 「ありがとう」は、自分では何とも思っていないけれども、相手には気持ち良く伝わるものであるから。

エ 「ありがとう」は、発する側も、相手も共に気持ち良くなることばであるから。

問八 傍線部 3「あいさつのことばも、このナカグロのようなもの」とありますが、どういうことですか。次の説明文の空欄にあてはまる言葉を自分で考えて十字以内で答えなさい。

あいさつとは、(十字以内) であるということ。

二 次の文を読み、後の問いに答えなさい

① 駅前の本屋は新しくできたばかりだ。以前からあった小さな店が二軒ともつぶれたあ

とへ、大型チェーン店が開店した。本のほかにCDやビデオも置いてある。

午後の本屋はがらんとしていた。壁が白いせいか、それとも、表の扉が開けっ放しのためか、なんだか寒々しいくらいだ。克久は迷わずコミックスの棚に進んだ。だれもいないと思っていたのに、コミックスの棚の奥の方では②少年が一人立ち読みをしている。克久も同じように目当ての一冊を取り出した。買って帰るつもりが、その場で読み出してしまふ。読み始めると、半分では止まらない。これは全部、読んでしまふナと思いながら半分までは一息にページをめくった。

漫画を読む速さだけは克久にかなわないと父の久夫があきれていたことがある。目玉の動きが違うのだ。コマ割りの形から、次にどのコマに進むべきか、瞬時にアハんだんできた。久夫は「③これでも昔は速いほうだったんだぜ」なんて言うが、たぶん、少年時代より目玉の運動インシケイが鈍っているのだ。それに漫画のコマ割り自体も、きつと昔より進歩しているに違いなかった。ま、漫画を読む速さが自慢にできるなら、克久もだいぶ「1」が高いのだが、あきれることはあつても、自慢にはなりそうもなかった。

半分まで読んで、首がくたびれたから、頭を左右に振って、首筋のコリをほぐした。と、視界の端に、立ち読みをしているもう一人の少年の横顔が引っ掛かる。

「あれっ」

克久は彼が相田守だったのに、ようやく気が付いた。「あつ」とか「やつ」とか声をかけようかと思つたが、なんだか声を出しそびれた。それに相田も克久がいることに気付いていない。知らない振りをしてコミックスの後半を読み始めると、*おずおずした視線が克久のほおをちくりと射した。

あ、こつちを見てると克久は感じたが、目は漫画のコマから上げなかった。最初に声をかけそびれたから、今さら気付いた振りをするのも具合が悪い。小学校のころの相手を射すくめるような強い視線ではなかったことも、④克久には、何だか知らないが、こたえた。

小学校のクラスにウ君臨していた相田守ならこんなふうに横から相手をのぞくような遠慮がちな視線を送ってきたりはしないのである。克久が「嫌なやつに会ったな」と感じる暇さえ与えずに、「おいっ」とか何とか声をかけてエ威圧したに違いない。克久は「⑤負けたんだ」とコミックスから目を離さずに、最近の相田が（A）気弱になったことをそう考えた。クラスの中の地位争いの敗者だということを改めて感じ直したのである。

そのうち、ほおをちくりと射す視線が消えたけれども、オケハイで立ち去った様子がないことは解つた。克久はちらりと相手の方を見た。つまらなそうに、立ち読みを続けている。まるで、そこに他の人間はだれもないような孤独な顔をしていた。コミックスの棚が急に*冗舌になったように克久は感じた。背に描かれた漫画の主人公たちが、人間よりも生き生きと、勝手に飛んだり跳ねたりした。克久は相田に声をかける気にもならなかったが、棚の前から立ち去るのも気が引けた。

読み終わった一冊を棚に戻して、次の一冊を手取る。すると、またほおをちくりと相田の□が射した。こつちを見ていると克久は意識する。自分が見られている間は、絶対に目を合わせないようにした。

けれども、相田がコミックスの方を見ていると、今度は克久が彼を眺める。お互い、別々の世界から相手をのぞき見ているような具合だった。こんなことを五、六度も繰り返したのである。その間にコミックスを三冊も読み終えてしまった。で、（B）目を上げ

ると、相手も（C）目をこちらに向けたところで視線と視線が（D）ぶつかった。それでもやっぱり品物でも見るように相手を眺めていた。二人はそれからまたコミックスを五、六ページも読んだ。目を上げると、また視線がちょうどタイミングよく出会う。

（中沢 けい『楽隊のうさぎ』より）

注

* おずおずした・・・こわごわ、おそるおそる。

冗舌 ……口数が多いこと、おしゃべり。

問一 二重線部アゝオのカタカナを漢字で、漢字は読みを答えなさい。

問二 「1」に、「得意げになる」という意味になるように、体の一部を表す漢字一字を入れなさい。

問三 （A）ゝ（D）にあてはまる語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

1 ふつと 2 ひよいと 3 ばったりと 4 すつかり 5 ちょうど

問四 傍線部①「駅前の本屋は新しくできたばかりだ。」とありますが、本屋に行った理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お金を使わずに本を立ち読みをするため。

イ 以前から新しい本屋が気になっていたため。

ウ 自分のほしかったコミックスを買うため。

エ 友だちとの約束までの時間つぶしのため。

問五 傍線部②「少年」について以下の問A、Bに答えなさい。

A この少年とは誰ですか。名前（姓名）を本文中から書き抜きなさい。

B 小学校時代の少年の性格として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人の気持ちを気にしないようなわがままな性格。

イ 自分からは行動できないおどおどした性格。

ウ 他人の気持ちを考えて行動できる優しい性格。

エ みんなのことをまとめられる頼りになる性格。

問六 傍線部③「これでも昔は速いほうだったんだぜ」について、何が速かったのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 走ること イ 食べること ウ 話すこと エ 読むこと

問七 傍線部④「克久には、何だか知らないが、こたえた」とありますが、なぜ「こたえた」のですか。理由を「ゝから」となる形で本文中から二十五字で書き抜きなさい。

問八 傍線部⑤「負けたんだ」とあるが、何に負けたのですか。「ゝに負けた」の形に合うように本文中から十字で書き抜きなさい。

問九 空欄□に入る言葉を本文中から漢字二字で書き抜きなさい。

問十 本文の内容に合っているものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 克久は、相田と視線が合うまでにはずいぶん時間がかかったと感じている。

イ 時間があつた克久は相田に連絡し、新しい本屋で待ち合わせをした。

ウ 久夫に漫画を読む速さのことを言われた克久はそのことに自信をもっている。

エ 威圧的だった相田の変わりようを見て、克久はいい気味だと思っている。